

第3回袋井市総合計画審議会 議事録

会議名	第3回 袋井市総合計画審議会	
開催日時	令和2年2月6日（木）午後6時30分～午後8時45分	
開催場所	袋井市総合センター4階大会議室	
出席者	【委員】	
	（会長）静岡理工科大学 学長	野口 博
	（副会長）一般社団法人 静岡県建設業協会 常務理事	杉保 聡正
	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	岩間 晴美
	株式会社ライトハウスエデュケーション 取締役 袋井国際交流協会 会長	大場 規之
	株式会社三菱総合研究所 主席研究員	北井 渉
	フリーアウンサー 県ラグビーフットボール協会 理事	澤木 久雄
	志村内科医院 院長（医師） 袋井市医師会 会計	志村 昌大
	田圃家穂波 代表	鈴木 康功
	袋井市自治会連合会 会長	高橋 正則
	お茶畑助産院 助産師・保健師・看護師	高橋 美穂
	県健康福祉部医療健康局 技監（保健師）	土屋 厚子
	ベトナム料理店経営者	ドンソントウン
	パナソニック株式会社 アプライアンス社 ランドリー・クリーナー 事業部 静岡工場 工場長	廣田 亮治
	静岡大学情報学部行動情報学科 教授・行動情報学科長	遊橋 裕泰
	【袋井市】	
	理事	山本 明央
	総務部長	鈴木 亨
	危機管理監	本多 芳勝
	総合健康センター長	安形 恵子
	市民生活部長	乗松 里好
	産業環境部長	神谷 正祐
	都市建設部長	榛葉 和弘
都市建設部技監	前田 仁司	
教育部長	伊藤 秀志	
教育監	山本 裕祥	
議会事務局長	一柳 好伸	

	中東遠医療センター 経営管理部長	城内 優
	袋井市森町広域行政組合 消防長	磯部 剛
	【事務局】	
	企画財政部長	大河原 幸夫
	企画財政部企画政策課長	藤田 佳三
	企画財政部企画政策課長補佐	鈴木 浩方
	企画財政部企画政策課企画係長	久保田 邦彦
	企画財政部企画政策課企画係	山本 隆文
	ランドブレイン株式会社名古屋事務所	松波 克登史
	ランドブレイン株式会社名古屋事務所	地本 真菜
【傍聴者】		
13名		
欠席者	【委員】	
	さわやか株式会社 代表取締役	富田 玲
	静岡文化芸術大学 文化政策学部芸術文化学科 教授	永井 聡子

(議事)

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 後期基本計画（素々案）について
 - (2) 意見交換
- 4 事務連絡
- 5 閉会

(意見・回答要旨)

1 開会

【事務局】	本日はお忙しい中、遅い時間にも関わらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第3回袋井市総合計画審議会を開会いたします。はじめに、野口会長よりお願いいたします。
-------	---

2 あいさつ

【野口会長】	<p>今日はたいへん寒い中で、傍聴者も多くみえて大変ありがたく思います。市役所の方もほとんどお見えですので、実り多い会にしたいと思います。</p> <p>今日の話に関わるお話を紹介したいと思います。「小さな村の物語イタリア」というテレビ番組で、イタリアの日常を紹介するものです。都会では精神的、身体的にクリティカルになっている現代、家族の健康第一で新緑や紅葉など季節感を味わえ、高齢になると心の落ち着きを得られる暮らしの大切さを感じました。</p> <p>最近、第2次掛川市総合計画（平成28～令和7年度）が改定されました。内容としては、報徳や生涯学習の考え方を基礎として、地域の持続可能性、多様性を尊重するものとなっており、袋井市にとって参考になる点だと思います。また、掛川市では、SDGsで1人も残さない社会づくりを進め、人生100年時代のテクノロジーの進化を取り入れていくとのことでした。</p> <p>また、御前崎の地域バス利用者が3000人超とのこと。80歳前後が中心となり、利用ボランティア住民も21人いるそうです。ドアtoドアで自宅や病院など、どこからでも乗ることができ、日常生活の足として利用している高齢者にとって大変便利なものとなっています。</p> <p>皆さんにお配りした資料のうち片山善博さんの社説で、実際東京に人口が流れている中、本当の地方創生とは何かを説いていました。現状では政府と自治体が空回りしている印象を受けます。全住民が家庭や隣人、外国人などの問題に取り組む必要があると思います。バスに関しては、高校や中学校へのバスがなくなると学生は不便ですが、バスの便数が増えてもバス通勤をするわけではないことから、廃止などある程度の不便さを我慢しなければなりません。また、本屋もなくなっていますが、本屋があることは、地域の雇用やまちの品格につながります。アマゾンで本を購入するなど利便さを多少我慢して、生活を質素にしていく必要があると片山氏は述べていました。</p> <p>東京一極集中の分析を紹介すると、女性の転入超過が目立っていて、理由としては、女性の高学歴化が挙げられます。現在、大学院に進学するのは女性の方が多く、これは社交的である女性に対して男性の方が内向的であると考えられています。地方の25歳以上の人で、名古屋、横浜、東京への進出が増えています。都市への集中を食い止めるためには、大学卒業の女性に向けたサービス業などの仕事を新しく作るべきなのではないでしょうか。</p>
--------	--

	<p>最後に、持続可能な地域の創生についての「地方創生×SDGs」を紹介します。SDGsとは、途上国から先進国まで、グローバルな世界で全人類が主役となって、世界で起きている問題の解決に当たることです。17のゴールと169のターゲットがあります。10年かけてアプローチする方法は3つあり、プラスチック削減等といった、リノベーションとスリム化が重要です。そのためには、17のゴール全てが連携・分担し、フォアキャスティングではなくバックキャスティングで考えていく必要があります。つまり、30年後先の生活未来像のためには段階的にどうしていけばよいのか、ターゲットを絞って対策を立てていくことが求められます。以上です。</p>
【事務局】	企画財政部長からご挨拶いただきます。
【大河原企画財政部長】	<p>夜間にお集まりいただき誠にありがとうございます。世界各地ではコロナウイルス等感染症で不安が広がっています。何よりも病気にかからないこと、そして早期発見早期治療が基本であります。お身体にはお気をつけください。</p> <p>袋井市では予算編成が大詰めを迎えております。議案として、2月に上程する予定ですが、ポイントは3つあります。1つ目は、人生100年時代、健康福祉を中心にどのように市政を進めていくか。2つ目は、Society5.0社会としてICTを活用した市民の利便性を高めること、また、行政に関してはスマート自治体を進めること。3つ目は、SDGsの考え方を様々なところで活かしていくことを意識して予算編成しています。</p> <p>第3回ということで、素々案を提示しますので、皆さんの意見をお願いいたします。以上です。よろしく願いいたします。</p>
【事務局】	<p>本日は、公開形式で市民の方にも傍聴していただいています。</p> <p>富田議員と永井議員がご都合より欠席ということで、永井議員からは、既に意見を伺っております。資料を拝見ください。尚、議論終了時刻は20時45分です。限られた時間での審議となります。それでは、この後の進行を野口会長、よろしく願いします。</p>

3 協議事項

(1) 後期基本計画（素々案）について

(2) 意見交換

【事務局】	素々案説明
【野口会長】	基本計画の取組についてご意見伺いたいと思います。
【岩間委員】	<p>施策1の子育て・教育についてですが、「みんなで支え合う」ということで、地域とのつながりが大事になります。これは政策6にも関連することで、核家族の進行やライフスタイルの変化、コミュニティの希薄化が進んでいる中で、まちづくりの視点からも、「みんなで支え合う」ことが地域のつながりを広げる上で重要になってくると思います。住民組織の重要性やコミュニティの意識を再認識することが重要です。5年、10年後を考えると、外国人が増えることが推察できますが、子育て、言語、宗教等の問題が発生すると考えられます。</p>

	<p>これらの起こりうる問題に対して、地域行政、企業、家庭、職場全てを総括し、つながりを深めることが大切です。</p> <p>また、共働き世代が増加している一方、働く年齢が長くなっていきます。祖父母世代に子育てを頼っている親が見受けられますが、将来、その世代も働いているため、子育てを手伝うことができない状況に陥ります。人に頼らず自分で子育てができる仕組みを検討していくことが大切です。</p>
【大場委員】	<p>政策 6 取組 3 の共生社会の確立について 2 点申し上げます。</p> <p>1 点目は、前期基本計画策定時、つまり 4 年前は外国人 3 %でしたが、今は 5.5 %と増加していることを受けて、計画に反映して欲しい、と前回の審議会でも述べさせていただきました。先日、多文化共生の専門家と話した際、外国人比率が 10 %を超えると、行政の対応が難しくなると言われているようで、特に地方部では政策が後手になっているようです。袋井市は外国人の増加率が高いので、他人事ではなく、外国人人口増加の取組に対して、10 %の壁を考えて計画に盛り込んでいるかお尋ねしたいです。</p> <p>2 点目、「外国人」という言葉の表現は、統計上使用していますが、生活の中で使用する「外国人」とは区別が必要です。例えば、ハーフを外国人と呼ぶのか。統計上は日本人と外国人で区別をするが、生活上では、区別が難しい。子どもに対して、外国人と区別してしまうことは、共生社会を考えると、場合によっては適当ではありません。日本人、外国人どちらも「日本で生活する人」と理解することが重要で、区別することが妥当ではないというケースが存在すると思います。行政の統計上と生活感覚での「外国人」という表現の方法を考える必要があります。そのような配慮が実生活にも変化をもたらす、共生社会として反映されると考えられます。</p>
【野口会長】	外国人比率 10 %の地域は例としてどこが挙げられますか。
【大場委員】	新宿が挙げられます。コンビニやファストフード店では外国人労働者が増加していますが、スピードの速さに対応できず、今でも追いついていません。
【北井委員】	<p>政策 4 の産業についてです。地方創生の根本として「仕事がある場所で暮らす」から、「暮らしたいまちで働ける」に変えていく必要があります。技術進歩や働き方改革によって、どこでも働けるチャンスが増えていくと考えた上で、10年20年先にどのように進めていくかを考える必要があると思います。また、産業政策は基礎自治体よりも県の役割が大きかった面がありますが、「暮らしと仕事」と考えると、県よりも基礎自治体の方にウェイトが掛かるかと思います。基礎自治体の運営方針である総合計画では、企業から見た雇用ではなく市民から見た就労、どうやって働いて、どうやって暮らしていくのかという見方が必要ではないでしょうか。それらの点から、取組 1 の産業の新たな展開の推進は、環境の変化を踏まえて展開する考えで賛同します。「暮らしたいまちで働く」ことに関しては、農業や福祉など人手の足りない分野がある一方、余ってくる人もいます。長期的にどこに人が必要になるかを企業や行政が共有することで、スムーズにセカンドキャリアや新入社員を育てていく展開を進めていくことができます。高齢者就業だけでなく、現役世代についても中長期的な</p>

	<p>目線で就労と雇用、産業をつなげて考えていくことが産業の新たな推進の中であると良いです。取組指標として、従業者数や就業者数を見る観点もあるとよいのではないのでしょうか。</p> <p>2点目は、取組4の魅力的な商業の振興についてです。取組指標が卸売業、小売業販売額となっていますが、物販よりも飲食、サービスが身近で必要になっており、それらが「商業」のイメージになっていると思いますので、その業種も対象にしてはいかがでしょうか。一方、市内事業者への支援という点からは、ただ徒に市民が求める市内に無いサービスを追求するよりも、事業者が行うサービスがさらに市民にとって豊かなものになるような支援をしていくことが重要ではないのでしょうか。地産地消を促すためにも、市民が市内で気に入ったお店や商品ができるよう、福祉や観光などといった分野を含め、市民と事業者が協力して袋井市のライフスタイルを創っていく取組を考えていってはいかがでしょう。</p>
【澤木委員】	<p>会長が挙げられた「小さな村の物語イタリア」は、田舎の質素な生活を取り上げています。特に感心できる点は、老人が人生をしっかりと語れることです。かつての日本のコミュニティのあり方を具現化されています。今、日本人高齢者で人生を語れる人は少ないのではないかと思います。地域で生きていく中で、語れることは大事ではないのでしょうか。</p> <p>政策2取組5についてです。ワールドカップの盛り上がりも、どう地域に活かすかが重要です。異文化の理解とか、英語教育の充実とかだけでなく、産業を興していくことが大切だと考えています。例えば、スポーツの大会では、選手や監督、コーチなどといったスポーツ関係者だけでなく、起業したい人や経営者、芸術家、レストランの方など一同に集めて交流すると、化学反応が起こると思います。多種多様 異業種異分野の人間を取り組むことがイノベーション、新たなサービスや取組につながると思います。政策2取組5の「親しみやすい市民スポーツの推進」に、スポーツによる産業興しを入れると良いと思います。</p>
【野口会長】	<p>横浜スタジアムでは、経営者を交えたレセプションを行っていました。袋井市でもエコパの周辺でやれると良いですね。</p>
【志村委員】	<p>1点目はコンビニ受診、はしご受診が多いことについてです。厚労省では、限られた医療財源・人員の中で、効率よく医療に関わることができるように国民プロジェクト宣言を行っています。そのためには、心と身体を総合的にサポートできる、かかりつけ医の啓発や電話相談（#8000や#7119）などの啓発が重要です。</p> <p>2点目は、死因第一位の悪性腫瘍の早期発見、生活習慣病の予防の重要性です。末期癌や脳卒中、心筋梗塞ともなれば、その方を取り巻く家族環境が一変し、精神的、金銭的不利益も計り知れません。今後、マイナンバーなどで個人検査データを管理できるようになれば、ビッグデータやAIなどの活用で、袋井市の疾病構造の予測ができ、健診の有効性、そして受診率を高めることが可能となります。</p> <p>3点目は介護の問題についてです。定期的な診療・内服、バランスの良い食事や運動をしていても、体力の衰えは年齢に勝てません。健康長寿が理想の一方で、介護者の負担が増えるため、急性期から慢性期まで切れ目ない医療が重要になってきます。最近</p>

	<p>の自治体病院再編の問題の中、全国に先駆けて、中東遠地域が病院統合を達成できたことはモデル事例として評価できます。退院時などに、地域包括支援センター等と協力し、患者と家族が生きがいや幸福を持続的に享受できるシステムを確立すると、少ないマンパワーでお金がかからない仕組みができます。さらに、先進的取組を熟成させることができ「子育てするなら袋井市」だけでなく「介護するなら袋井市」のようなキャッチフレーズができると、介護不安も解消され、若者が永住してくれるのではないかと考えます。</p>
【野口会長】	<p>5Gにおいて遠隔診療はどこでも受けられますが、その他にどのような有効性が考えられますか。</p>
【志村委員】	<p>袋井市は医師が少ないことで有名です。ICTを利用して、より効率的でありお金がかからない医療が提供できれば良いと思います。</p>
【鈴木委員】	<p>政策4取組3の経営力の高い農業の振興についてです。前回の審議会では農地が住宅地の水没を防ぐことを挙げました。素々案では、防災な意味を含め、農業の多面的維持について記述があり、良かったです。</p> <p>農業を継続していくには、ビジネス経営体、法人化なども必要ですが、健康面や障がい者雇用の連携、教育、コミュニティ等多様性も必要です。基本方針5の農資源のさらなる有効活用では、その面についても記述されていて、SDGsを踏まえている素々案になっていると思います。総合計画を中高生のうちから理解することで、10年後の将来の自分を考えるきっかけとなり、大人になったときに袋井市に帰ってきたいと思ってもらえると良いです。</p>
【高橋正則委員】	<p>政策5取組3の交通安全・防犯対策の推進についてです。地域防犯対策の事業では、コミュニティセンターの事業としてを継続しており、青色防犯パトロール隊130人が毎日のように地域を巡回しています。犯罪の抑止力になるので続けていきたいですし、そういう取組が増えていくと良いです。</p> <p>政策6取組1の市民と行政の協働によるまちづくりについてです。自治会の加入率が85%なので加入率を上げていく取組が必要です。色々なことを実施するには市民であり、市民がどれくらい理解してやってくれるのかが重要です。指標の目標値をどのように検討していくのか、目標値の出し方や考え方を示して欲しいです。</p> <p>また、コミュニティの事業で、地域の人と話し合いながら事業を進めていますが、役員の選定が難しくなっています。消防団の人員なども同様で、規定や活動内容を変えていくことが必要だと考えています。</p>
【野口会長】	<p>日本で、WEBカメラが増えましたが、活用できていません。危険を未然に察知することが求められます。ICTで危険なものを察知し、防ぐ技術の進歩に期待したいです。</p>
【高橋美穂委員】	<p>若者の流出、特に若い女性の流出を防ぐ必要があります。施策では女性の社会進出を推していますが、専業主婦に手厚いような、磐田や掛川とは異なった、専業主婦に特化した施策を出した方が良いのではと考えます。女性がどのように働き、子育てしたいのかを考えて施策に掲げて欲しいです。</p>

	<p>袋井市では、母乳育児をする割合が低く、妊娠から出産、育児までが連携、継続的にケアできていない状況にあります。子育てしやすい環境を目指しているにも関わらず、当たり前ことができていません。母乳育児を教わりたい人がいるのにも関わらず、母親はそれを教わず退院するため、乳房トラブルを起こした時に、誤って内科に行くことなどが発生しています。母親が知識を身に着けて、対策を取ることはできると思うので、育児の知識を持てる教育システムを創ってもらえると良いです。</p> <p>また、子育ては親の学びの時期でもあり、地球環境やいじめなど考えるきっかけとなります。SDGs等に触れ、社会を見直す時期でもあるため、家族としてそういったことを考える機会を持つことで、若者が住みやすいまちにつながっていくと思います。その点から、前期計画の施策1 取組1の指標から「保育コンシェルジュの人数」が削除されたのは残念です。</p> <p>最後に、外国人の方、特にイスラム系の方は女医でないと出産ができないですが、中東遠総合医療センターには産科や小児科に女医がないので、女性の医師が増えると良いと思っています。</p>
【野口会長】	<p>大学でも、女性教員の雇用が1割を超えそうですが、育児休暇はあっても、保育園の確保ができず仕事のスタートが遅れている方がいます。子育てしながら働くのは難しいので、スローライフ、スロースタートもよいのではと考えます。</p>
【土屋委員】	<p>志村委員からも発言がありましたが、最近ビッグデータの活用が言われています。県では、医療や75歳以上の介護データを約6年分結びつけ、モデル市で分析したところ、認知症とBMI18.5以下、貧血の関連が明らかとなりました。袋井市もビッグデータを用いて、地域課題を分析できると良いではないでしょうか。</p> <p>また、女性の方が男性よりも長生きなので、女性の健康づくりをもう少し施策に取り入れたいです。生活習慣病等よりも、筋骨格系が一番大事で、骨密度が20歳から落ちていくため、若者の極度のダイエットは危険です。</p> <p>最後に、子育てしながら働くことについてです。ある町では、子どもを連れて単身高齢者へお弁当を配達する（ママ宅）ことをしています。お弁当代は100円程度高くなりますが、高齢者の方が子どもの顔を見られることに凄く喜んでいます。母親も月1、2回だけです社会参加することで、充実した気持ちになるので、袋井市でも世代間交流ができる施策ができると良いと思います。</p> <p>最後に、袋井市の健康づくりへの取組はとても有名です。これからも頑張っ欲しいと思っています。</p>
【ドアン委員】	<p>多文化共生についてです。外国人が日本社会に慣れるために、外国人コミュニティなど、集団生活ができる環境があると良いと思います。袋井市のことを伝えたり、外国人のサポートや管理がしやすくなると思います。</p> <p>慣れてきたら、日本にいる意識を高める必要があると思います。日本語能力、地域活動への参加をすることでビザに関係するポイント付ける制度があると良いと思います。</p>

<p>【廣田委員】</p>	<p>政策 4 取組 3、農業について工業の視点から述べます。ICTを活用したスマート農業とありますが、工業分野でもスマートファクトリーと言われています。ローカル5Gが導入されると、工場の生産設備の中のソフトウェアが不要で、クラウドで管理でき、世界中の工場のソフトウェアの変更や、全ての情報を集約することが可能となります。センシングなど工業分野での先進技術が農業で簡単に利用できるのではないかと思います。</p> <p>また、様々な産業のニーズをつなげて、アイデアを出し、イノベーションしていくことが大切です。袋井市のシーズ、そういったことは身近にあっても気付いていないこともあるかと思えます。産業をつなげる施策ができると発信もしやすくなると考えます。分野横断、多分野連携が大切です。ものづくり視点、一歩二歩上の視点で見たときに、何ができるのか考えることができると良いと感じています。</p>
<p>【遊橋委員】</p>	<p>共働きで女性がフルタイムで働く現状がありますが、もう少しゆるやかに働けることを支援する政策、施策があると良いと思います。</p> <p>ICTについてです。前期計画の政策 3 取組 6 の削除について、前回の審議会で、基本的には賛成とお伝えしました。一方で、ICTの活用を計画の中にどのように反映したのか、考えを市にお聞きしたいと思っています。</p> <p>ICT活用推進の方法はいくつかあり、オープンデータを積極的に展開することが良いと思います。他の市でもオープンデータをドキュメントファイルで公開していて、データの再利用ができないものが多いため、素のデータを公開する必要があります。本学の学生は、ポケモンGOに似たスマホアプリを開発していました。こういったデータを公開すると、外側のリノベーションが使えたりします。データ使って何かをするコンテストの開催や、データを作ってもらったときに市が公認して、市民に案内する等すると色々なことができると思います。</p> <p>総務省が5Gを進める中で、使い方への予算が出ています。市で展開する施策ではないかもしれませんが、遊撃的にトライしてみる予算を確保して試行的に実行してみることも良いと思います。例えば、市職員がキャッシュレス生活をする、パーソナルモビリティの運転手をしてみると、課題が見えてくると思います。できる取組を落とさず実施して欲しいです。例えば、スマート農業とありますが、農業部局の方は本当にICTを進められるのか。遊撃的にやるミッションを残してはどうでしょうか。</p>
<p>【杉保副会長】</p>	<p>総合計画は市民に向けたメッセージですので、何を言いたいかをしっかり書くべきだと思います。</p> <p>策定体系の中で、防災は施策 5 に位置付けられています。防災は、全ての基盤を守るものであるため、全体を支えるもの、横軸で強調して、市民にメッセージを出す感覚が良いのではないかと思います。</p> <p>また、政策 5 取組 1 の地震災害と、取組 2 の治水・治山のバランスが悪いと思いました。同じ自然災害にも関わらず、取組 2 は治水・治山対策にとどまっています。取組 1、2 を合体させ、「自然災害に強いまちづくり」として、その中に、地震対策と治水対策にま</p>

	<p>とめた方が分かりやすいと思いました。また、2つの共通事項として、自助共助や災害関連死などソフト対策も盛り込んで欲しいです。</p> <p>最後、道路についてです。量的なものから質的なものへ、という記述がありますが、もうすこし未来を見据えた記述があった方がよいと思います。将来に夢が広がるような表現があると良いのではないかと思います。</p>
【野口会長】	女性委員の方から意見ををお願いします。
【岩間委員】	<p>大場委員からご発言のあった外国人の表現についてです。文字にすると、中々区別が難しいですが、例えば日本で生まれた外国にルーツがある方は、外国人という分類にならないのではないか。多文化共生の視点で、統計的上と実際の表現を分けて考えた方がよいと思いました。</p> <p>次にイノベーションについてです。廣田委員のお話にもありましたが、経済の潜在的な成長率が低い中で、経済成長を伸ばすには、技術革新がポイントだと思います。0から1を生み出すのは労力が必要なので、今あるものを組み合わせて、高い効果を産む視点を持っていくことが色んな分野で大事だと思います。</p>
【高橋美穂委員】	男女協働参画の視点の入った自然災害対策の1つとして、女性目線での防災が施策に入らないかなと思いました。
【土屋委員】	<p>健康づくりや病気の予防をICTの活用で実施していくことが言われていますが、県としてもどのようにやっていくのか迷っているので、遊橋委員に、お考えがあればお願いしたい。</p> <p>また、JR企画の旅行に行った際に、東京や千葉の方から遠州三山への行き方を聞かれました。情報がないのでJR企画の旅行にも入れてという意見があり、もっと売り込んだ方がよいと思いました。</p>
【遊橋委員】	<p>医療と健康が切れている部分があります。健康については、ライフログや、活動量などは既に商業ベースになっています。医療に近いところかというと、認知症の確率をどう判断するかという点で画像処理がかなり進んでいます。機械学習でAIに読ませて、MRIで脳の画像から、認知症になる可能性が高確率で分かるようになると思います。</p> <p>次に、介護従事者のノウハウの習得方法についてです。認知症の方に寄り添い、反発を引き出さず介護するシーンを画像で撮り、目を合わせている時間や発言、態度を分析しました。初任の介護人に対して、時間配分が違うことなどを教え、早くプロに近づけるよう、介護職の成長をアシストしています。</p> <p>また、誤飲についてはかなり判別もできるようになってきています。画像や音声処理など、医者が見えない日ごろの生活のデータを取って、病院に行く前にアラートをする技術革新が起こると思います。</p>
【澤木委員】	<p>総合計画の文言の使い方が気になりました。美しいまちづくり等、良いイメージですが、曖昧で分かりづらいです。例えば、「シングルマザーがぶらりカフェに立ち寄れるまちづくり」というように副詞と動詞にした方が、市民が具体的なイメージを持つことができると思います。</p>

	SDGsが1人歩きして、目的化されるのが怖いです。17の目標と総合計画との関係性で、貧困と飢餓にポイントが無いです。日本は、特に女性の貧困率が高く、そういう点に袋井市がどうケア、フォローされているのか、素々案に文言が無く気になりました。
【大場委員】	高橋正則委員のご発言のとおり、最終的にやるのは自治会となります。総合計画に掲げたことを実行し、最終的に形として現れるのは、関連計画や実施に伴うアクションにつながるものだと思います。計画の策定段階で、どういった形で表現すると具体的な行動に結びつくのか、具体的な計画に結びついていけるのかを考えて、計画を作っていただけたらより現実的なものになると思います。
【遊橋委員】	政策4取組4についてです。新産業会館の話がありましたが、大学でも、インキュベーション施設としてオフィスを貸し出す施策もあるのですが、オフィスを借りるほどでない企業もあると思います。貸し郵便受け、打合せスペースを共同で借りるだけで、できるビジネスがICT分野では多くあります。貸しオフィスまでいかないまでも、そういった取組が、プチ起業につながるのではと感じていますので、そのような場づくりを検討していただければと思います。
【志村委員】	政策2取組3の中の「協働の考え方や役割」についてです。市民企業の役割で、「症状に応じ、適切な医療機関に受診します」とありますが、はしご受診を助長する表現になっていると感じます。「はしご受診はなるべく控え、薬局もかかりつけ薬局を持ち、健康相談や薬の重複、副作用のチェックを行えるようにします」というように書き換えた方が良いと思います。
【杉保副会長】	防災教育は重要だと思いますが、学校の状況は厳しく、防災を教える時間がないと言われる。こういった状況の突破口として、計画の中で防災教育を先駆けてやっていくと画期的ではないかと思います。
【野口会長】	<p>ありがとうございました。今日は、施策に関して50～60の意見が出たのではないのでしょうか。市役所の方々には意見を反映していただき、次回の審議会までに取りまとめをしていただきたいと思います。</p> <p>SDGsは国連の中で定められ、10年の長期的な中で、達成すべき目標を設定したものです。17の目標は全て関連していて、バラバラなものではないということが大事です。1人、1機関ではできないこともあり、また、実際にできるのは次の世代かもしれませんが、それを皆で理解することが必要だと感じました。</p> <p>また、計画の表現についてですが、具体的な動きは副詞と動詞で分かりやすく表現できると良いのではないかと思います。</p> <p>それぞれの分野で、袋井市の施策を1人ひとりにまで広げていけると良いと思います。それでは、事務連絡を企画財政課長からお願いいたします。</p>

4 事務連絡

【事務局】	長時間にわたりありがとうございました。ご質問を多くいただいた中で、指標値の設定方法については、全ての分野で調整中ですので、現状を分析しながら設定いたします。目標
-------	--

	<p>値についても、次回の審議会以降でお示しするとともに、目指す目標についての考え方もご説明させていただきます。</p> <p>また、資料7のとおり、2月中旬に総合計画座談会を開催いたします。皆様に御審議いただいた計画素々案の説明とトークセッションを組み合わせ、北部、中央部、南部で計3回行います。計画策定の理解とご意見をいただく機会として設定いたしました。</p> <p>なお、次回、第4回の審議会は、4月中旬に行う予定でございます。</p>
【野口会長】	総合計画座談会の様子を教えていただければありがたいです。
【事務局】	次回、第4回の審議会時に報告をさせていただきます。

5 閉会

【事務局】	以上をもちまして、第3回袋井市総合計画審議会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。
-------	--

以上